

平成28年6月7日  
一般社団法人日本自動認識システム協会  
研究開発センター 酒井

## 第1回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録

1. 日 時：平成28年6月7日 15:30～17:30

2. 場 所：一般社団法人 日本自動認識システム協会（JAISA） B会議室

3. 次 第：

- |                              |       |         |
|------------------------------|-------|---------|
| 1. 開会の挨拶                     | 事務局   | 15:30 ～ |
| 2. 配布資料の確認                   | 事務局   | 15:31 ～ |
| 3. 議事                        | 半谷委員長 |         |
| 1) 委員長挨拶                     | 半谷委員長 | 15:35 ～ |
| 2) 委員自己紹介                    | 各委員   | 15:36 ～ |
| 3) 本年度事業計画概要説明               | 事務局   | 15:45 ～ |
| 4) 連携および生体認証側検討状況報告          | 齋藤委員  | 16:05 ～ |
| 5) 熊本地震を踏まえて被災者支援システム側検討状況報告 | 吉田委員  | 17:00 ～ |
| 6) その他                       |       |         |
| 4. 事務連絡                      | 事務局   | 17:20 ～ |
| 1) 今後の日程                     |       |         |
| 2) 写真撮影など                    |       |         |

4. 出席者：(敬称略)

[委員]

- 半谷精一郎 東京理科大学
- 寶木和夫 国立研究開発法人産業技術合研究所
- 吉田稔 西宮市情報センター
- 南晴久 西宮市情報センター
- 森岡毅 川口市
- × 宮崎昌美 狭山市
- 村上秀一 株式会社日立製作所
- 齋藤雄一郎 富士通株式会社
- 塙俊浩 日本電気株式会社
- 齋藤訓 株式会社日立システムズ
- 上田隆 株式会社システム・エージ
- × 平岡良彦 セコム株式会社

- 鷲宏行 日本電子計算株式会社
- 平野誠治 凸版印刷(株)

[オブザーバ]

- 高田直幸 セコム株式会社
- 山田徳幸 日本電気株式会社
- 清水光弘 株式会社NTT データ・エム・シー・エス (代理出席)
- 加藤誠司 経済産業省
- 中山和泉 経済産業省

[事務局]

- 酒井康夫 (一社)日本自動認識システム協会

## 5. 配布資料

- 資料1: 第1回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会アジェンダ
- 資料2: 平成28年度生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会名簿
- 資料3: 平成28年度の事業計画
- 資料4: 生体認証活用被災者支援システムの研究開発説明資料
- 資料5: 連携および生体認証側の調査計画

## 6. 議事内容

### 1) 開会の挨拶

(一社)日本自動認識システム協会(JAISA)事務局より、昨年度に引き続き今年度もJKAの補助金を受けて事業を実施することになったことと、委員会を開催する旨、挨拶があった。

### 2) 委員長挨拶および委員自己紹介

半谷委員長より、みなさんのご協力を経て進めていきたいとのご挨拶をいただいた。  
また資料2の委員名簿を用いて、各委員より自己紹介があった。

### 3) 本年度事業計画概要説明

事務局より、資料3は、財団法人JKAに提出した事業計画である旨の説明があった。(詳しくは、資料3を参照のこと)

また、資料4を用いて、生体認証活用被災者支援システムの研究開発の説明があった。(詳しくは、資料4を参照のこと)

#### <質疑応答>

- ・ 昨年の上期と今年度の上期が、調査と同じ表現になっているが違いはなにか。  
→ 去年の積み残し事項があり、その調査をしていく。  
資料3の6の事業内容(3) - (1)が具体的な内容になる。

### 4) 連携および生体認証側検討状況報告

資料5を用いて、齋藤委員より、「連携および生体認証側検討状況報告」の説明があった。

#### <検討事項>

以下を今後のWGで検討することとなった。

- ・被災者支援システムと連携機能の間のインターフェース(コマンド、パラメータ、データフォーマット)。
  - ①被災者支援システム側で検索結果を表示する際の受け渡し部を含めて。
  - ②今回のシーケンスの変更部分も含めたインターフェースの記述。
  - ③検索結果で表示する上限や閾値の規定記述。
  - ④男女別や年齢などのオプションの検索機能の規定記述。
- ・検索結果で表示する上限や閾値の取扱い検討をする。
  - ①のインターフェース上で規定はするが、使用するかは各社のポリシーやセキュリティによるオプションとする。
- ・動作の理解のための紙芝居の作成(各社含めて)。

#### <質疑応答>

- ・12ページで検索結果画面を表示とあるが、イメージ的にはどうなるのか。避難所関連システムから何をかえすのか。
  - 連携機能側からIDのリストが出ていくというイメージで返そうと考えている。IDに紐づく関連情報、本人を確定する従属情報を画面にリスト化して出すことを考えている。
- ・12ページにWebブラウザで生体情報をテンプレート化して渡すとなっているが、これはどこまでやるのか。特徴まで求めるとすると、ベンダ依存になるが、検索結果なども一体として作るのか。
  - 被災者支援システムとWebブラウザの中の連携機能(クライアント側)で、インターフェースを共用化しようと考えている。APIのインターフェース使用を決めて各社に連携機能として実装してもらう。そこができれば各社共通で使えるようになると考えている。
- ・12ページの検索結果がブラウザに返った後は、自動的に番号だけを被災者支援システムに投げ表示するイメージですか。
  - Webブラウザの中に拡張機能という項目があり、各社の連携機能を実装してもらうが、メニューボタンを押してから検索結果を被災者支援システムに返すまでを一連の流れとして制御してもらうことを考えている。
- ・インターフェースはちゃんと記述しないとわからない。
  - 仕様案は去年開示しています(去年の報告書について)ので、また意見をいただきたい。6月ぐらいに生体認証側WGで検討して、仮にでも決めて被災者支援システム側に渡して検討してもらう予定です。
- ・前回もらったのは、被災者支援側にテンプレートを返すように書かれていた部分は変わるということか。
  - 変わる。
- ・検索結果を複数返すのは、上限か閾値などはこれから検討か。
  - はい。点数の部分はパラメータで何件返すかはセットできる。今回はスコア値を返すなどに関しては見送りたい。そこまで各社の仕様を揃えるのは難しいと思う。

- WGで検討となるが、インターフェース的にはスコア値の返還はオプションで規定しておく、使うか使わないかは各社によらずしておくのが良いのではないかと。
- ポリシーやセキュリティにもよるので。
- ・ユーザーの立場からみると、自治体を用意するシステムに依存するようになるので、そのインターフェースの見え方については違和感なく使用できる仕様なのか。
  - 標準インターフェースということで用意するつもりである。
- ・オプションの検索機能に関して付加機能としての提言を最後はするのか。また、どこの部分に付加をしていくのか。
  - 男女別、年齢というものはあるべき論では決めていくが、プロトタイプはそこまでできない。
- ・ニーズとして必要と考えると、最終的な姿ではそこを付加しないと使い物にならないという話になるかと受け取っているが。
  - 検索項目が多ければいいのかということと必ずしもそうではない。被災現場で属性をみながら入力するのは難しい。どのタイミングで入れて検索にとばすのかもあるべき論の中で考えていく。
  - ひとつの方法としてマルチガイド。いくつかの項目、顔と指紋とか。そういうのも必要かなと思う。
  - 連携機能クライアントの中でベンダさんは用意していけばよい。検索機能というのは、プロトタイプではひとつしか返せないが、本来は複数人設定して返せるようにしたいのでインターフェース上に定義はしたほうが良いと考えている。生体認証側WGで検討する。
- ・指紋を収集することになって法的な整備はどうなっているのか。
  - 西宮と話をして要援護支援者に対しては管理しなくてはいけないので、同意をとった上で集める。
  - 人の命を扱うんだから問答無用で使ったらいい。
- ・紙芝居を作ってくれたらわかりやすい。各社の場合も含めてやったほうが良い。

##### 5) 熊本地震を踏まえて被災者支援システム側検討状況報告

吉田委員より、「熊本地震を踏まえて被災者支援システム側検討状況報告」の説明があった

##### 6) 次回以降の予定等（仮）

- ・第2回 平成28年8月下旬
- ・第3回 平成28年11月上旬
- ・第4回 平成29年3月上旬

以上